

科目名	東洋医学概論	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
	Outline of Oriental Medicine	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)前期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	
【授業の学習内容】 中医学を中心に、中医学の基礎となる思想や人体の生理観、疾病観などについて講義する。 前期では主に整体観念や陰陽五行論といった中医学の基礎となる思想をはじめとして、東洋医学的な人体のとらえ方(生理観)を学ぶ。【 気、血、津液、臓腑】 2年次の鍼灸診察学につながる科目であり、東洋医学的な診察、診断、治療の基礎となる知識を学ぶ。 授業開始時に前回の授業内容の小テストを実施する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】 東洋医学的な診立てや治療を行うために必要な知識を身につける。 ＜具体的な目標＞ 目標①陰陽五行それぞれの属性にあてはまるものを分類できる。 目標②気血津液の「生成」「気の種類と作用」「血の循行」「津液の輸布と排泄」について説明できる。 目標③五臓六腑の生理作用と生理特性を答えることができる。 目標④国家試験の過去問題で陰陽五行、気血津液、五臓六腑の項目にあてはまるものに関して出題意図が理解でき、解答できる。							

授業計画・内容	
1回目	東洋医学の成り立ちと発展・東洋医学の基本的特徴(整体観念)について理解し、説明することができる。
2回目	陰陽学説について理解し、説明することができる。
3回目	五行学説について理解し、説明することができる。
4回目	気血津液(気)について理解し、説明することができる。
5回目	気血津液(血)について理解し、説明することができる。
6回目	気血津液(津液)について理解し、説明することができる。
7回目	精気学説・気血津液の相互関係について理解し、説明することができる。
8回目	蔵象学説について理解し、説明することができる。
9回目	五臓(心・肝)について理解し、説明することができる。
10回目	五臓(脾・肺・腎)について理解し、説明することができる。
11回目	六腑(胆・胃・小腸)について理解し、説明することができる。
12回目	六腑(大腸・膀胱・三焦)について理解し、説明することができる。
13回目	奇恒の腑について理解し、説明することができる。
14回目	刺法(九刺、十二刺、五刺)について理解し、説明することができる。
15回目	これまでに学んだ気血津液と五臓の関連性を理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)授業毎に行う小テストの勉強を行うことで、前回の授業の内容の復習ができます。小テストで間違えたところや分からなかったところはすぐに見直し正しい答えに直してください。 (目標②)東洋医学用語については、反復学習により慣れることが必要です。漢字は書いて覚える、漢字の読み方は声に出して覚える、用語の意味は分からなければすぐに調べるを徹底しましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	東洋医学概論は西洋医学とは違う視点(東洋医学)で、健康と病気を診る科目です。東洋医学概論では東洋医学の基礎となる思想や哲学の理解と人体の生理観、疾病観などを学習します。授業毎に前回の授業のポイントを復習するための小テストを実施しますので、毎回、小テストに向けての勉強をしっかりと行ってください。小テストに向けての学習を行うことで毎回の授業ポイントをしっかりと把握することができます。また前回の授業とのつながりが整理でき、授業の内容にスムーズに入っていくことができます。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社	

科目名	東洋医学概論 Outline of Oriental Medicine	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	笹尾 可那
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	(通年科目)後期
【授業の学習内容】 中医学を中心に、中医学の基礎となる思想や人体の生理観、疾病観などについて講義する。 後期では主に病因病機、経絡の機能について学ぶ。 2年次の鍼灸診察学につながる科目であり、東洋医学的な診察、診断、治療の基礎となる知識を学ぶ。 授業開始時に前回の授業内容の小テストを実施する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】 東洋医学的な診立てや治療を行うために必要な知識を身につける。 <具体的な目標> 目標①病因の分類ができ、六淫の邪気の性質を答え、それぞれ説明できる。 目標③発病の要因となる正気や邪気概念を理解し説明できる。 目標④陰陽失調において現れる4つの病証を理解し説明できる。 目標⑤経絡の構成と十二経脈の手足の走行部位、循行(接続部位)、属絡関係を答えることができる。							

授業計画・内容	
16回目	病因(外感病因、内傷病因、病理産物)について理解し、説明することができる。
17回目	六淫の邪気(風邪、暑邪、火邪)について理解し、説明することができる。
18回目	六淫の邪気(燥邪、湿邪、寒邪)について理解し、説明することができる。
19回目	内傷病(七情)について理解し、説明することができる。
20回目	内傷病(飲食不摂・劳逸)について理解し、説明することができる。
21回目	痰飲・瘀血について理解し、説明することができる。
22回目	発病のメカニズムについて理解し、説明することができる。
23回目	正邪闘争について理解し、説明することができる。
24回目	陰陽失調について理解し、説明することができる。
25回目	経絡の構成について理解し、説明することができる。
26回目	十二経脈の特徴や名称、流注について理解し、説明することができる。
27回目	十二経脈(肺経・大腸経・胃経・脾経・心経・小腸経)の走行や接続を理解し、説明することができる。
28回目	十二経脈(膀胱経・腎経・心包経・三焦経・肝経・胆経)の走行や接続を理解し、説明することができる。
29回目	奇経八脈について理解し、説明することができる。
30回目	病因病機・経絡についての要点を理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)授業毎に行う小テストの勉強を行うことで、前回の授業の内容の復習ができます。小テストで間違えたところや分からなかったところはすぐに見直し正しい答えに直してください。 (目標②)東洋医学用語については、反復学習により慣れることが必要です。漢字は書いて覚える、漢字の読み方は声に出して覚える、用語の意味は分からなければすぐに調べるを徹底しましょう。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	東洋医学概論は西洋医学とは違う視点(東洋医学)で、健康と病気を診る科目です。 東洋医学概論では東洋医学の基礎となる思想や哲学の理解と人体の生理観、疾病観などを学習します。 授業毎に前回の授業のポイントを復習するための小テストを実施しますので、毎回、小テストに向けての勉強をしっかりと行ってください。 小テストに向けての学習を行うことで毎回の授業ポイントをしっかりと把握することができます。また前回の授業とのつながりが整理でき、授業の内容にスムーズに入っていくことができます。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社	